

令和5年度 小・中連携研修会(福平中グループ)まとめ

〈 日 程 〉

13:50	14:35	14:50	15:20	15:30	16:30
授業参観(全学級) (45)	準備・移動 (15)	分科会 I (30)	準備 (10)	分科会 II (60)	

※ 受付は玄関にて各自行ってください。分科会后、各分科会で解散です。

※ ネームプレート・室内履きを持参ください。

〈 会 順 ・ 会 場 〉

	学 年	教 科	単 元 名 (予定)	場 所
授 業 参 観	1 年	国 語	大きなかぶ	1 年教室
	2 年	国 語	メモをとるとき	2 年教室
	3 年	算 数	たし算とひき算 (3けたのたし算)	3 年教室
	4 年	算 数	垂直と平行	4 年教室
	5 年	道 徳	サタデーグループ	5 年教室
	6 年	外国語	Unit3 "Let's go to Italy."	6 年教室
	ひまわり	算 数	たし算とひき算 (3けたのたし算)	ひまわり教室

分科会 I (30分) 14:50~15:20

- 1 開会のことば (司会:平川小学校)
- 2 分科会 I・II についての説明 (司会)
- 3 実態報告

※ 各校で昨年度の共通理解事項について実践したことや、取り組みの様子について報告する。

※ 実践報告・取り組みの様子から今後検討したい課題を考えておき、報告する。

準備 15:20~15:30

分科会 II (60分) 15:30~16:30

- 1 意見交換 (50分)
※ 分科会 I で話題にした課題について、今後3校でどのように取り組んでいくかの意見交換を行い、共通実践事項を話し合う。
- 2 共通実践事項確認 (5分)
- 3 反省用紙の記入 (5分)
- 4 閉会のことば (司会:平川小学校)

分科会名	場 所	分科会名	場 所
①なめらかな小・中連携	5 年教室	④支え続ける特別支援	ひまわり教室
②よりよい生活指導	3 年教室	⑤応える教育相談	2 年教室
③確かな学力向上	6 年教室	⑥健やかな保健指導	1 年教室

令和5年6月19日(月)
鹿児島市立 平川小学校

【小・中連携研修会の目的】

全教育活動を通して小学校と中学校が連携を深め、「豊かな人間性」、「確かな学力」、「健康・体力」などの「生きる力」の育成を図る。

特に、9年間の学びの連続性を追求することを通して、学習指導方法の工夫や改善を行い、基礎学力の定着を図るとともに、なめらかな小・中連携を通じて、いじめ・不登校などの課題解決のため、一人一人の児童・生徒の良さを認め、どの児童・生徒も存在感・充実感のもてる学校・学級づくりに努める。

1 福平中グループの研究主題 <令和4年度～令和6年度>

難しく考えない

生きる力を育むために、基本的な生活習慣や基礎学力を

しっかり身に付けさせるにはどうすればよいか

(小・中学校ともにわかりやすい共通実践をしていくことを通して)

サブテーマ ～小・中学校での情報交換を实のあるものにし、豊かな学力を身に付けさせるには～

2 主題設定の理由

学校の教育活動が目指している「生きる力」の育成のためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決していくために必要な思考力・判断力・表現力などの力を育てていかななくてはならない。

3校の取組において、これまでに生活面から挨拶や言葉遣いなどの基本的な生活習慣をしっかり身に付けさせ、落ち着いて学校生活を送ることを目指し取り組んできた。また、学習面からは学習習慣の確立、授業を受けるための約束ごとなどを通して、各校の実態に即した学習習慣の定着に向けた指導をすすめてきた。立腰・あいさつの習慣づけなど一定の成果も上がってきた。しかし、実態としては、基礎的・基本的な生活習慣や学力を確実に習得させるまでには至っておらず、主体的に取り組む態度の育成においても課題が多いと思われる。そこで、昨年までの成果と課題を検証するとともに、これからの3年間は、基本的な生活習慣や確かな学力の定着について3校で話し合い、連携を図りながらより効果的でわかりやすい共通実践ができるように本テーマに即した研究を推進していきたい。

3 研究の視点

(1) 社会生活を営む上で欠かせない知識・技能(基礎学力)を明らかにする。

ア 生徒指導(しつけや善悪の判断・マナーなど)

イ 学習指導(基礎・基本の定着の手立て、授業の工夫、課題示し方、家庭学習の指針など)

(2) 明らかになった基礎学力を基に、3校で共通実践する内容を明らかにする。

(3) 3校で継続して共通実践を行う。

【研究期間・内容】 <令和4年度～令和6年度>

1年次 (R4年)	校種間の相互理解を図るとともに、「正しい生活習慣の確立」「基礎学力の定着」を柱とし、共通実践事項を具体的に決めて取り組み、研究実践の中で明らかになった課題や問題点について整理し、その焦点化と2年次、3年次の研究の方向性について共通理解を図る。	福平中学校
2年次 (R5年)	1年次に焦点化された課題や問題点を解決するための実践などについて協議し、解決の糸口を探る。	平川小学校
3年次 (R6年)	2年間の研究実践を集約するとともに、問題解決に向けての新たな方向性を探る。	福平小学校

4 令和5年度研究計画

期 日	会 名	場 所	内容等
令和5年 6月19日(月)	小・中連携研修会	平川小学校	実践経過の報告・意見交換 令和5年度の共通実践事項の確認
令和6年 1月26日(金)	小・中連携研修会推進委員会	平川小学校	令和5年度研究の成果と課題について 令和6年度小・中連携研修会に向けての確認

5 各分科会で決まった共通実践事項に対する成果と課題

<p>① なめらかな小中連携（R4年度6年担任と福平中1年部での引き継ぎ）</p>
<p>① 授業態度、話を聞く姿勢 ・ 掲示物をそろえて共通実践（学力向上との連携）</p> <p>② 立腰と黙想の実践【継続】 ・ 2分前着席、1分前黙想（中学校）、1分前着席、チャイム黙想（小学校） ・ 中学校は授業開始時のあいさつは「立腰→お願いします」、小学校は「姿勢→始めましょう」で。 ・ 黙想もこれまで同様に。実態に合わせて小学校の中・下学年でも取組む。 ・ 黙想に不安がある児童への配慮は必要。</p> <p>③ 文具についての取扱いの指導。 ・ 付箋について学習の決まり等がないので、使い方に注意しておく必要がある。 ・ シャープペンシルを家庭で使っているが、基本学校ではNG。</p> <p>④ 掃除時間の黙想 ・ 掃除開始時と終了時に中学校では黙想をしている。小学校でも徐々に浸透させていきましょう。</p>
<p>① 授業態度、話を聞く姿勢 ○ 掲示物をそろえて共通実践を充実させた。 ○ 年間通して掲示と声掛けをしている。聞き方名人あいうえお（相手の顔を見て、良い姿勢で、うなずきながら、笑顔で、終わりまで）を意識できる児童が増えた。 ○ 各教科通信を掲示した。</p> <p>② 立腰と黙想の実践【継続】 ○ 1分前着席、チャイム黙想（小学校）、2分前着席、1分前黙想を徹底（中学校）することができた。 ○ 中学校は授業開始時のあいさつは「立腰→お願いします」、小学校は「姿勢→始めましょう」を実践できた。 ○ 黙想もこれまで同様に実践できた。 △ 薄目の児童への指導と黙想に不安がある児童への配慮は必要。 △ 低学年の実態から、1分前着席ではなく、チャイム着席でいいのではないかと。</p> <p>③ 文具についての取扱いの指導。 ○ 付箋について話題が上がったが、持ってくる児童が少ないことや使い方に問題がないという現状が分かった。 △ 付箋について学習の決まり等がないが統一するのは難しい（教科の特性や教師の意図の違い）ので、使い方に注意し効果的な活用をするなど今後の共通理解が必要。 ● シャープペンシルを家庭で使っているが、基本学校ではNG。持っている児童もいるため使おうとする児童もいた様子。中学校では入試がシャープペンシルを認めていることもあり、鉛筆の使用を完全にすることができていない。</p> <p>④ 掃除時間の黙想 ○ 学校によっては、まだ実践できていない現状もあるが、始めと終わりの黙想が定着しつつある。</p>
<p>② よりよい生活指導（よりよい人間関係づくりを育む、積極的な生徒指導のあり方）</p>
<p>1 積極的な生徒指導の在り方 ◎ SGE、SSTの実施。 ◎ いいところを見つけて掲示する。 ・ 児童、生徒同士で実施する。 (例) Thanks flower=友達の良いところを記入 ・ 教師から児童、生徒へ実施する。 きらり委員会=いいところ探し</p> <p>2 ノーメディアからメディアコントロールへ ◎ 情報モラル指導を繰り返し行う。 ◎ 親子でルールを決めてもらう。</p>
<p>1 積極的な生徒指導の在り方 ○ SGE、SSTの実施ができた。（今後更新の必要あり） ○ 委員会や学級で「いいところ探し」を実施し、掲示することができた。（教師から児童生徒へも） ○ 帰りの会でいいところの発表に取り組めた。 ○ 人権週間で人権標語に取り組んで紹介するなど、場面を設定して取り組めた。</p> <p>2 ノーメディアからメディアコントロールへ ○ 情報モラル指導を繰り返し行うことができた。 ○ 生活リズム実行表にメディアの時間の項目を設け実施したり、学級PTAで呼びかけたり、啓発も行った。</p>

- 持ち帰りのルールなど親子でルールを決めてもらったり、呼びかけたりしているが、守れていないところもあり、課題解決に至っていない。
- Tiktok に投稿、実況中継をしたり、LINE に迷惑動画を上げたりしたことがあった。

③ 確かな学習向上 (児童・生徒の学力を定着させるための指導の手立て)

- ◎ 2分前着席、1分前黙想(中)→前段階として1分前着席、チャイム黙想(小)
 - ・ 学年に応じて取り組む。
 - ・ 授業の最初に黙想する。黙想を確実に行う。
 - ・ 学級掲示で意識付け。掲示用データを平川小から各学校に送り、ラミネート加工して各クラスに配布、利用。
 - ・ 職員も間に合うように。
- その他** 話し合いで、中学校の宅習の量を聞いたので、各校で見通しや意欲付けとして指導に生かす。

- 1分前着席、チャイム黙想、2分前着席・黙想に取り組むことができている。時間を見て行動するのが難しい学年では、1分前に声掛けするなどして、着席している。また、休み時間がしっかり確保できた時の方が、1分前着席が実行できていた。
- 生徒会の取り組みとしても行っている。
- 6年生は「立腰」と声掛けしているが、全学年で同じようにあいさつしている。
- 学級掲示で意識付けもできている。担任等が都度指し示すなどしている。
- 職員も間に合うように意識し、一緒に取り組んでいるが、息つく間もなく次の授業に行くこともある。
- 学級掲示ができなかったため、来年度から掲示するようにする。
- 低学年では黙想が出ていない学級もあったので、各学年に応じて着席の仕方や黙想のしかたも変えていく必要がある。(教師が声をかける場面が多かった。)
- 学年や学級で取り組みに差があった。再度共通理解をした。
- 時計を見て行動できるようにする。
- 薄目を開けている生徒、徹底できない生徒への指導と配慮が必要である。
- △ 6年生は3学期から中学校のやり方に合わせ、2分前着席1分前黙想に取り組んでいく。
- △ 高学年で急に取組むことは難しいので、低学年のうちから身に付けておいて欲しい。
- △ 低学年での1分前着席、チャイム黙想は難しいのではないかと。
- △ 中学校の宅習は、1日大学ノート1ページ。個々の生徒により内容と質に大きな差がある。やる気の出るコメントやスタンプ・シールなどの工夫をしている。英語は「英宅」がある。

④ 支え続ける特別支援 (特別支援学級在籍児童・生徒の学校適応を図る情報交換と支援)

- ① 自立を目指す取組を保護者と連携して進めよう。(基本的な生活習慣、家庭学習習慣、身なりや身の回りに関すること。)
- ② ソーシャルスキルを身につけよう。(ソーシャルなものの見方や考え方ができるとともに、自分の行動を客観的に振り返ることができる児童・生徒の育成)
- ③ 小中での密な情報交換を進めよう。
- ① 自立を目指す取組を保護者と連携して進めよう。
 - 交流担、支援担、保護者と連携は取れていて、子供たちへの支援につながることができた。登校しづり傾向のある児童の欠席日数を減らすことができた。
 - 家庭学習の習慣は身に付いている。
 - 市で行われている保護者研修会の資料を、保護者が情報提供してくださり、特別支援学級の全保護者へ配布することができた。
 - 行動面で課題のある子供や登校しづりのある子供について、療育センターと連携を取り、SSWにつなげ話し合うことができた。
 - 中学入学後に療育手帳を取得した生徒もいる。
 - 療育手帳については、保護者の語り込みと啓発がまだまだ必要である。
 - 時間割調べや提出物など忘れることが多い。2日連続にならないように保護者とも連携を取っている。その一方で、早寝早起き朝ごはんなど、家庭の協力なしでは取り組めないことに対して、中々理解と協力を得られないことがあり、どのように対応していけばよいか課題である。
- ② ソーシャルスキルを身につけよう。
 - 体験的な活動を設定して、言葉づかいや友達とのコミュニケーションを意識させえた実践的な練習を行った。

- 友達に優しく、接することができるようになった。
- 友達も優しくしてくれることが嬉しいので、みんなで遊ぶことを楽しみにしている。
- 自分の行動を客観的に振り返ることができる生徒の育成に努め、各自成長している姿がある。
- あいさつの仕方、よりよい過ごし方、よりよいコミュニケーションの取り方など、学校全体の課題として考えていく必要がある。
- ③ 小中での密な情報交換を進めよう。
 - 福平中の特支の先生方の協力もあって、小中連携が充実してきた。6月に6年生の児童と保護者の授業参観及び保護者向けに説明会を開催していただき、大変ありがたかった。
 - 1月の中学校入学説明会においても、特別支援学級入級の保護者に対して別枠で説明会をしていただけることになり大変ありがたい。
 - インフルエンザの流行で参加できなかったが、中学校の学習発表会にも招待していただいて感謝です。
 - 昨年3月の小中引継会で個別のファイル（移行支援シート・指導計画・支援計画・診断書等）を持ってきていただき、情報交換ができたので、今年度以降も継続してほしい。
 - △ 知的学級の児童については、療育手帳を中学校入学前に取得する方向で保護者にも促してほしい。
 - △ これからも教員同士の情報交換ができればと思います。

⑤ 応える教育相談（児童・生徒の悩みや不安を受け止め解決をめざす相談のあり方）

- ◎ 豊かな学力を支えるための教育相談
 - ・学校楽しいーとの活用
 - ・外部、市の教育相談との連携強化（情報発信を含め）
 - ・教室には入れない子への居場所の確保づくり
- 学校楽しいーとの活用は、できている。
 - ・実施後聞き取り、校内委員会で報告、いじめの認定可否、全職員で共通理解するなど、学級経営や学年経営に生かした。
 - ・タブレットで実施することで、入力や分析がスムーズになった。
 - ・具体的な活用法を係として示すことができた。
 - 学校楽しいーとがどの程度活用されたか、全体では確認できていない。
 - ・積極的な教育相談の観点から、活用方法についての共通理解や情報の共有をどのようにするかは課題である。
- SCとの連携、希望保護者との面談の前に、児童と事前に教育相談をされていた。
- 教頭が窓口になり、SC等との面談日時の調整をしたり、外部と担任との連携を図ったりした。
- 落ち着かない児童は支援学級へ行って落ち着くなどの取り組みができた。
- 教室以外の別室に居場所を作り担任と話し合った学習活動を行った。オンラインで教室と同じ内容を学習することがもできた。支援には、養護教諭も尽力している。
- 教室に入れない子が数人集まると、生徒指導上の別の問題も出てきている。その部屋で過ごすルールが守られないことがある。

⑥ 健やかな保健指導（学校・家庭が連携した基本的な生活習慣の定着をめざして）

- ◎ 歯の治療率アップ、80%を目指す（中学校は60%）
 - ・勧告、保護者への呼びかけ
- ◎ メディアコントロール
 - ・夜8時には電源を切る（小学校）
 - ・中学校は学習以外の使い方を考える。
 - ・休憩をとりながらの使用で、視力、肥満の弊害をなくすようにする。
- う歯治療については、1学期と2学期に治療勧告文書を配付し、さらにPTAや個人面談の際に担任から個人的にも話をしてもらうなど、児童生徒への勧告や、保護者への呼びかけが功を奏した。
 - ・令和5年度1月末での治療率は78.5%。（3人未治療）だった。
 - ・11月（56.6%）から1月（61.3%）にアップした。
 - ・60%を迫るところまで達成した。
- 保健日より、生徒指導日よりを通してメディアコントロールを啓発し、視力低下を防ぐことにもつなげた。
- 生活リズムチェックの期間は、意識して「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいるようである。メディアに触れる時間もこの期間はいつもより短い。

- 長期休みのメディアコントロールについては、それぞれの家庭でメディアに触れる時間を決め、あまり長時間にならないように計画的に触れることができていたようだった。
- 視力低下については、1学期・2学期いずれかでCもしくはD判定だった児童のほとんどが受診して経過観察を行っている状況。
- 昼休みに外で元気よく遊ぶ生徒が多く、肥満傾向は少ないと言える。
- メディアコントロールについては、「夜8時にテレビ以外のメディアをオフにする」ことを繰り返し呼びかけてきたが、8時はなかなか難しいようだ。特に4年生以上は、習い事や塾などの関係もあり、8時以降になってやっとメディアに触れることができる場合もあり、難しい。
- 体調不良で保健室に来る児童に聞くと、夜10時頃までゲームをして、その後動画を見ているようである。
- 多くの児童が長時間メディアに触れているようで、視力が低下している。
- △ 朝食抜きの児童が昨年に比べ減ってきている。